

第1学年 国語科学習指導案

日 時 平成20年10月10日(金) 5校時
場 所 1年生教室
児 童 男4名 女2名 計6名
指導者 古 里 洋 子

1 単元名 こえにだしてよもう

2 教材名 「くじらぐも」(物語) なかがわ りえこ 作

3 単元について

(1) 児童について

児童はこれまでに、物語の第一歩となる「はなのみち」で物語の楽しさ、面白さを味わい、続いての物語「おむすびころりん」でリズムカルな言葉の面白さに気づき、話のあら筋をつかんだり、話の内容を劇化や動作化したりして物語に親しんできた。「大きなかぶ」では、繰り返しの言葉や文章のリズムのおもしろさ、挿絵や文章から登場人物の気持ちを想像して、吹き出しに書く活動をしてきた。

どの児童も物語を自ら読んだり、お話を読んでもらったりすることが大好きである。読んだ内容についても理解しており、面白かったところや感想を担当に話して聞かせる。また、児童は、自由にお話を考えることが得意である。「大きなかぶ」の続きを書く活動では、児童からいろいろな考えが出て大いに学習が盛り上がった。発言は活発であるが、叙述に即して読み取ろうとする意識は低く、勝手な読み取りをしている児童も少なくない。

読んだり、話したりすることに意欲的な児童が多いがその一方で特別な支援を必要とする児童もいて、個人差の大きい学年である。また、書くことについても個人差が大きく、自分の思いや考えを整理できない児童や書くスピードが遅い児童もいる。

(2) 教材について

1年生及び2年生の「C読むこと」の目標は、「書かれている事項の順序や場面の様子などに気づきながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる」である。読む能力が確かなものとして身につくことによって、読む楽しさやおもしろさを実感したり、内容を的確に理解したりできるものとする。そのためには、まず順序に従って内容を押さえたり、場面の様子に気づきながら読み取ったりすることを通して、書かれてあることの大体をとらえることが大切である。また、この時期に楽しんで読書しようとする態度を育てることは、生涯にわたって読書に親しむ態度につながる。本を読む楽しさや面白さを味わわせることは、児童の想像力を養ったり、語彙量を増やしたり、児童の理解力・思考力の向上、内面の発達にもつながると考える。

青い空にぽっかりと浮かぶ白い雲を見て、「あの雲に乗ってどこかへ行ったみたいだな」と思ったことがある人は多いのではないだろうか。この作品は、そのような夢の世界を、物語の中で味わえるファンタジーである。体育の時間という身近な現実の中から、ふいと幻想の世界に入り、想像の世界で存分に遊んだりした後、また現実の時間と空間に戻る。物語開始の場面は身近で入りやすく、入ってみると一挙に想像の世界に誘い込んでくれ、そしてまた、ちゃんと現実の世界に戻してくれるという、児童が安心して空想の世界に遊ぶことができる物語である。

主人公は、「1ねん2くみの子どもたち」である。そのため、同化しやすく、読み進めていくうちに、自然に物語の中に溶け込んでいくことができる。空を飛ぶ大きなくじらぐもに向かって「おうい。」と呼びかけたり、クラスの友達全員と手をつないで、「天までとどけ、一、二、三。」と飛び上がったり、動作を伴って楽しく音読できる教材である。このような音読を通して、児童のさまざまな想像力を導き出し、喜びや発見を豊かに表現していく力が育つものと思われる。

くじらと子どもたちの会話はリズムカルで、話の展開も分かりやすい。場面展開も明確で、物語中の挿絵を

手がかりに児童が主体的に、楽しんで読み進めていくことができる教材である。

(3) 指導にあたって

「くじらぐも」は、子どもたちがくじらぐもに乗っているいろいろなところへ出かける夢のあるスケールの大きい物語である。そのような教材の特色を味わうために、掛図や背景画などを活用し教室にくじらぐもを具現化したい。児童がくじらぐもに乗っている雰囲気大切にすることによって、一人一人の思いを広げていけるようにする。また、地の文や会話文の読み方を工夫し、確かな読み取りにもつなげていきたい。

「つかむ」段階では、範読から学習に入ることはせず、今まで見た雲について児童へ問いかける。そして、想像の楽しさや雲や空への興味を引き出し、どの児童もファンタジーの世界へ入りこめるようにする。雲の形についていろいろなイメージを持たせることがくじらぐもを読み取らせるための第1歩であるとする。学級には、読むことに抵抗のある児童がいるが個別指導をして読むことの楽しさを味わえるように配慮する。

「ふかめる」の段階では、児童が的確に読み取り、ファンタジーの世界に触れられるように、役割音読や指名読を取り入れる。また、くじらぐもと子どもたちの掛け合いの場面を動作化や劇化により児童が想像できるようにする。書く活動では、登場人物の様子にサイドラインを引いたりその気持ちを吹き出しに書いたりさせ、児童が物語に同化できるようにしたい。書くことに抵抗がある児童には、教師といっしょに考えるなど個別に対応していく。叙述に即して読み取れるようにするため、くじらぐもと子どもたちの様子を対比させたり、位置関係を押さえたりする。また、挿絵や掛図を活用して読み取りの苦手な児童も意欲的に学習に取り組められるように配慮したい。

「まとめる」の段階では、くじらぐもに手紙を書く活動や自分が見つけた雲に話したいことを書く活動をする。書くことに抵抗を感じている児童もいるので、①物語を読んでおもしろかったことや楽しかったこと ②お願いしたいこと ③くじらぐもに聞いてみたいこと、など書く視点を与え、個人差に対応したい。

本時の指導では、「くじらぐもに乗って、空の旅をする子ども達の気持ちを想像する」を課題とする。空を旅する子ども達の気持ちを豊かに想像させるため、動作化をさせてから、まとめる段階で吹き出しに書かせる。また、本時の展開は、「読む→自力解決→動作化→書く」とし、児童が45分間意欲的に学習に取り組めるようにした。本時では、子どもたちの記述が少ないため、叙述に即して子ども達の気持ちを想像させるには困難と思われる。そこで、教科書の挿絵や掛図を活用したい。勝手な想像にならないために、発言の根拠を言わせるなどして、本文から離れないようにしたい。

4 単元の目標と評価規準

主目標	◎ 登場人物の様子などを想像したり、声に出したりして、物語を楽しむ。 ◎ 雲と話したいことを考えて書く。	
	目 標	評価規準
関 心 意 欲 態 度	・場面の様子を想像しながら読み、音読や動作化などをして、お話を楽しく読むことができる。	・挿絵や文を手がかりに、場面の様子や登場人物の気持ちを想像したり動作化したりしながら楽しく読んでいる。
読むこと	・あらすじを押さえて、体操の時間や雲の上の場面を想像豊かに思い描いて読む。 ・地の文や会話文を考えながら、声の大きさなどを考えて、工夫して読んでいる。	◎体操の時間や雲の上の様子などについて、想像を広げながら読む。(読ウ) ◎語や文としてのまとまりや内容、呼びかける声の大きさなどを考えて、声に出して読む。(読エ)
書くこと	・くじらぐもへの手紙や雲に話しかけたいことなどを想像して書くことができる。	◎雲と話したいことを考えて書く。(書ア)
言語事項	・新出漢字や片仮名を読んだり書いたりすることができる。	◎新出漢字や片仮名を読んだり書いたりすることができる。(言イ)

5 指導計画 (全10時間)

段階	時	学習内容	評価規準	書く活動
第一次 つかむ	1	<ul style="list-style-type: none"> くじらぐものあらすじをつかみ、好きな場面やおもしろいところを見つけて発表しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までに見た雲は、どんな様子だったかを進んで発表している。(発表) 挿絵を手がかりにして内容の大体をとらえている。(発表・観察) 	<ul style="list-style-type: none"> くじらぐもを読んで、感想を書く。
	2	<ul style="list-style-type: none"> 全文を音読する。 新出漢字や片仮名の書き方を練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文のまとまりに気をつけて、正しく読んでいる。(発表) 	
第二次 ふかめる	3	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちと「くじらぐも」と出合いを読み取り、飛び乗ることになった様子を読み取る 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の様子を想像して動作化したり気持ちを考えたりして読んだりしている。(発表・観察) くじらぐもと子どもたちの会話部分に気持ちをこめて、はっきりとした声で音読している。(発言・観察) 	<ul style="list-style-type: none"> 「くじらぐも」や「1ねん2くみの子どもたち」の様子について書かれてある文に気をつけて、登場人物の気持ちを吹き出しに書く。
	4	<ul style="list-style-type: none"> くじらぐもに飛び乗ろうする子どもたちの様子と、それを応援するくじらぐもの様子を動作を入れながら読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> くじらぐもに乗るまでに子どもたちがしたことを読み取っている。(観察・発言) 会話部分に着目し、子どもたちとくじらぐもの気持ちを話し合う。(ノート、発言) 	<ul style="list-style-type: none"> くじらぐもに乗るまでに子どもたちがしたことにサイドラインを引く。 ジャンプする高さに着目させながら、子ども達やくじらぐもの気持ちの高まりを吹き出しに書く。
	5 本時	<ul style="list-style-type: none"> くじらぐもに乗って空を旅する子どもたちの様子を想像し、発表しあう。 	<ul style="list-style-type: none"> 雲の上の様子や子どもたちの会話、気持ちなど、想像して書く。(発言、ワークシート) 声の大きさや動作化など、読み方を工夫して楽しく読んでいる。(観察・発表) 	<ul style="list-style-type: none"> くじらぐもの様子にサイドラインを引き、くじらぐもに乗ったつもりで何が見えるか、友達とどんな話をしたかを想像して、ワークシートに書く。
	6	<ul style="list-style-type: none"> くじらぐもと別れる子供たちの気持ちを読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> くじらぐもと別れることになった子どもたちの気持ちを想像して書く。(発言・ワークシート) 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく遊んだくじらぐもと子どもたちは、なんていって別れたか、自由に想像しながらワークシートに書く。

第三次 まとめ	7	<ul style="list-style-type: none"> ・物語を読んで思ったことや考えたことをくじらぐも宛に手紙を書いて、紹介し合う。 ・自分が見つけた雲とお話したいことを考えて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「くじらぐも」を読んで思ったことをくじらぐも宛に手紙を書く。(ワークシート・観察・発表) 	<ul style="list-style-type: none"> ●「くじらぐも」を読んで面白かったことやうらやましいと思ったこと、お願いしたいことなどをくじらぐも宛に手紙を書く。
	8 9 10		<ul style="list-style-type: none"> ・自分が見つけた雲やその雲と話したいことをワークシートに書いて、発表する。(ワークシート・発表) 	<ul style="list-style-type: none"> ●雲の形から自由に想像して、雲に話しかけたいこと、雲が答えたことをワークシートに書く。

6 本時の指導

(1) 目標

くじらぐもに乗って、空を旅する子どもたちの気持ちを豊かに想像し、物語の世界を楽しむことができる。

(2) 授業仮説

くじらぐもや子どもたちの気持ちを叙述にもとづいて吹き出しに書かせることによって、空を旅する子どもたちの楽しい気持ちを想像できるであろう。

(3) 展開

段階	学習活動	支援と評価
つかむ 5分	1 学習課題を確認する。 くじらぐもに のっている 子どもたちは どの きもちだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習にスムーズに入るために学習課題を先におさえる。 ・前時は、「天までとどけ、一、二、三」を読んで、本時につなげる。 ・読みの視点は、教師が提示する。 くじらぐもが話したこと。 くじらぐもの様子。
ふかめる 25分	3 学習場面（10ページ、11ページ）を音読する。 <ul style="list-style-type: none"> ・一斉読 ・役割読み 4 学習課題を解決する。 (1) くじらぐもの様子を読み取る。 ○子どもたちを乗せたくじらぐもは、どんな様子ですか。くじらぐもの様子が分かるところに線を	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声ではっきりと音読できるようにする。 ・「さあ、およぐぞ」「げんき いっぱいすすんでいきました」の文からくじらぐもの張り切っている様子を読み読み取らせる。サイドラインを

<p>ふ か め る</p> <p>25 分</p>	<p>引きましょう。 ○「さあ、およぐぞ。」は、どんなふうに読めばいいですか。</p> <p>(2) くじらぐもに乗る子どもたちの気持ちを想像する。 ○みんなもくじらぐもに乗りましょう。 ○くじらぐもに乗った感じはどうですか。 ○空は、どんな様子ですか。何が見えますか。</p> <p>○くじらぐもに乗っている子ども達の気持ちを吹き出しに書いて発表しましょう。</p>	<p>引いた根拠を明らかにさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>●くじらぐもの様子が分かる文にサイドラインを引く。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの記述がないので、挿絵や掛図を使って、子どもたちの楽しい気持ちを想像させる。 ・くじらぐもに乗っている子どもたちの気持ちが豊かに想像できるように動作化をする。 ・くじらぐもに乗って、見たものや思ったことを話させる。 ・教師は、くじらぐもの役をして児童に発問する。 ・感覚的なとらえにならないために、発言の根拠を言わせる。 ・教科書の挿絵や掛図を活用する。 ・書く視点を与える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>●くじらぐもに乗っている子どもたちの気持ちを吹き出しに書く。</p> </div> <p>(読) くじらぐもに乗っている子どもたちの楽しそうな気持ちを想像して書いている。(学習シート)</p>
<p>ま と め る</p> <p>15 分</p>	<p>5 学習のまとめをする。 ○役割音読をする。</p> <p>6 自己評価をする。</p> <p>7 次時予告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの書いた吹き出しを入れて、音読をする。

(4) 具現の評価規準と指導の手だて

観 点	A	B	Bに 至 らせるための手だて
読 み の 能 力	雲に乗って空の旅をしている子どもたちの楽しい気持ちを挿絵や自分の経験などに照らし合わせて、吹き出し に 書いている。	・雲に乗って空の旅をしている子どもたちの楽しい気持ちを想像して、吹き出し に 書いている。	・挿絵を手がかりにして、建物や乗り物がどんなふうに見えるか助言し、教師の支援を受け吹き出し に 書く。

板書計画

くじらぐも

くじらぐもにのってそらのたびをする 子ども
たちはどんなきもちでしよう。

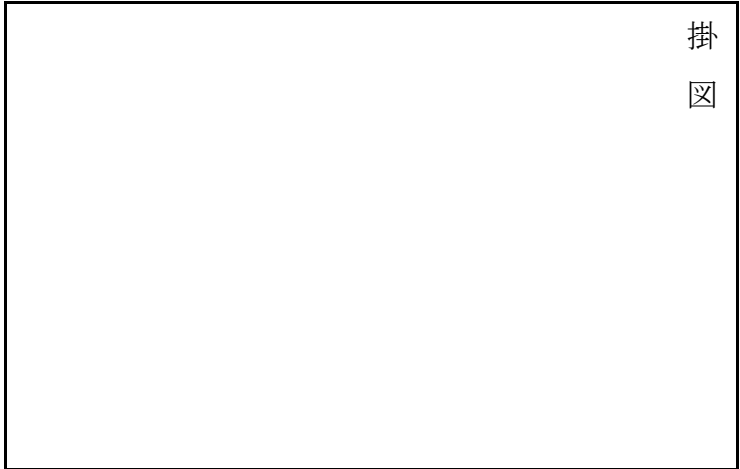
くじらぐものようす (えやぶんと)

くじらぐも・・・はりまわっている

「さあ、およぶぞ。」

げんき いっぱい すすんでいきました。

掛図



うみのほうへ
ふね

むらのほうへ
はたけ

まちのほうへ
いえ たてもの

空
あおい
あおい
どこまづも
どこまづも

子どもたち・・・たのしそう

うた

うわー、いえやふねがちいさく見える。空は、きもちがいいな。
くじらぐものうえは、ふわふわして きもちがいいな。
おーい、いま ぼくたち くじらぐもに のっているんだよ。